

まだ終わっていない。

さて私も冤罪ながら死刑囚

全身にしみわたって来る悲しみにたえつ  
つ

生きなければならぬ

そして死刑執行という

未知のものに対するはてしない恐怖が

私の心をたえようもなく

冷たくする時がある

そして全身が木枯らしにおそわれたよう

に

身をふるわせるのである

自分の五感さえ信じられないほどの

恐ろしい瞬間があるのだ

しかし、私は勝つのだ

(同、一九七三年一月二六日)

事件概要をコンパクトに説明する冒頭  
約五分のシークエンス以外は、字幕を含  
めて極力、説明的な要素を排して創られ  
ており、最小限に抑えた音楽と相まって、

観る者に映像との対話を促す。それにし  
ても幾つも挿入される獄中日記は圧巻で  
ある。ひで子の言う「運命」が、これほ  
どの強度を持つ言葉を紡がせたのだらう  
か。

私が長い獄中生活で

学ばざるを得なかった

「自由」というものは

このような痛烈な無念さと

一種の眩しさをもって

私はあらためて

自らに質問しつづけている

お前は罪のない身でありながら

いつになったら自由を取り戻せるのか

(同、一九八一年一月二九日)

